



もうすぐ夏休み (CRT 標準学力検査から)

漢字・計算 基礎学力の総復習を

先週に実施された中学部の前期中間テスト。5時間目そうっと中1教室のドアを開けてみると、シーンとして張り詰めた空気が流れ、子どもたちが真剣にテスト問題に取り組んでいました。びっしりと詰まった国語の設問、日頃の学習の努力が問われています。

さて、今週で各学年の個人面談も4日目を迎え、来週は最終日となります。この中では、お子様の現地校や補習校と家庭での学習や生活の様子が主に話されたと思います。

補習校の子どもたちの学力の現状を理解し、今後どのような指導を「中1の中間テスト風景」続けていけばよいか、先週の6月職員会で、22年度 CRT 標準学力検査の結果について分析が行われ、話し合いをしました。3月19日に実施され、既に各ご家庭には検査結果が返却されていますが、本補習校全体の学力検査結果の概要を裏面に掲載しています。ご覧下さい。

この標準学力検査は、日本の教育研究団体の民間テストですが、結果は日本との学力比較ではなく、補習校で学んだ子どもたちが、1年間の国語と算数・数学の学習分野でどの程度能力が定着しているかが計られています。そこでは、個々の子どもたちの学習の理解度とともに、マイアミ補習校全体の学力傾向が分かります。

22年度も国語と算数・数学で6割～7割の学力でおおむね理解はできていて、各分野の学



小3教室「校長の授業参観」

力傾向は21年度とほぼ変わりません。しかし、日本語力の理解が

基礎となる国語では、「読み取る能力」に向上が見られる成果はあるものの基礎学力である「言語能力」(漢字や言葉の意味等)に依然として課題があります。又、算数・数学は国語より総合で常に平均は高いですが、文章題や証明問題など日本語力を伴う「数学的な考え方」は課題が残り、計算の基礎学力で間違いも目立つなど指摘がされています。このことは、日本語力を更にしっかりと身につけさせることが求められるとともに漢字や計算の基礎学力獲得の努力が、補習校の学習では欠かせないことを改めてこの学力検査の結果は示しています。

子どもたちの生活が家庭に戻る補習校の夏休みは間もなくです。常に、日本語の学習環境を維持し、読書習慣とともにこれまでに習った漢字の読み書きや計算の問題を総復習してみる絶好の機会ではないでしょうか。学級で出される夏休みの宿題にあわせ、ご家庭において、学習への助言や励ましをお願いいたします。

